

# 北海道胆振東部地震

## 済生会三条病院DMAT活動報告

平成30年9月6日 午前3時8分 北海道を襲った地震により亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

一日も早い皆様の安全と復興をお祈り申し上げます。

当院では新潟県からの要請に基づき、現地にDMAT（災害派遣医療チーム）を派遣しました。以下にその活動を報告いたします。

\*派遣期間 9月6日(木)～10日(月)

\*派遣場所 札幌医科大学附属病院



### 活動内容 (概要)

地震発生当日の14時18分、厚生労働省より日本DMATへ派遣要請があり、同日17時30分に院長以下、職員に見送られ病院を出発。翌7日 13時に県内他チームとともに札幌医療圏活動拠点本部に到着しました。

今回、当チームは主に情報収集並びに連絡・記録業務の担当となり、打合せ後 直ちに各病院に出向き情報収集業務に当たり、引き続いて老人保健施設や特別養護老人ホームなどで医療要請等の情報収集に従事しました。

8～9日にかけては、広域災害救急医療情報システム (EMIS) の入力確認や未入力病院への確認訪問及び本部にてクロノロジー(情報を時系列に記録、緊急時の情報管理を行う方法)業務や情報連絡・記録業務(写真参照)などを担当しました。最終的に担当記録を電子データ化し、引き継ぎの作業を行い任務を終えました。

その後17時に活動本部を離れ、翌9月10日 17時に無事帰院しました。

### 隊員の感想 (丸山医師・山川看護師・佐藤看護師・小野山臨床工学技士・小林医療福祉相談員)

#### 医師

派遣に際して、急な予約変更に応じてくれた外来患者さん。病院職員による適切な後方支援(食料・宿泊・交通の確保等)。皆さんに背中を押してもらい、医療ニーズの掘り起こしや確認という職責を無事に果たすことができました。ありがとうございました。  
地震及び水害時における「水と非常電源用燃料の確保」の重要性を再認識しました。

#### 看護師

地震による停電の影響は大きく、病院では夜間はホールに患者さんを集め、暗闇の中看護師を増員して対応したり、階段を手渡して食事を配膳したりと大変な苦勞をされていました。その中で、病院の全職種が一丸となって活動されていることがとても印象的でした。「当院ならどのように対応するか」看護の視点で新たな側面から考えるきっかけとなりました。今回の活動にあたり、ご支援・ご協力をいただいた皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

#### 業務調整員

今回の災害派遣を通して「災害とは被災者はもちろん支援者も例外なく、日頃からの備えがすべてを左右する」ことを痛感しました。今後も県央唯一の災害拠点病院として、またDMAT隊員として災害に対する備えを整えていきたいと考えます。  
なお、今回電子カルテ導入等大変な時期に送り出していただきました。院長並びに職員の皆さんに、この場を借りて感謝申し上げます。

## 【DMAT活動状況 記録写真】



9/6 院長以下、職員に見送られ病院を出発



救急車両が集結した札幌医科大学附属病院



DMAT本部 作戦会議



現地DMAT本部にて状況確認



DMAT車両からの荷下ろし



9/10 院長に帰院報告



ガソリンを求める長蛇の車列 (札幌市内)